【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成27年10月8日(2015.10.8)

【公開番号】特開2014-31841(P2014-31841A)
【公開日】平成26年2月20日(2014.2.20)
【年通号数】公開・登録公報2014-009
【出願番号】特願2012-173035(P2012-173035)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｌ　11/16　(2006.01)
Ｈ０２Ｇ　3/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｌ　11/16
Ｈ０２Ｇ　3/04　３０１Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成27年8月20日(2015.8.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
合成樹脂製の条帯により管壁を構成した合成樹脂製可撓管であって、
条帯は螺旋状に捲回された状態で、互いに隣接する条帯の側縁部が嵌合しており、
条帯は、条帯の一方の側縁部の側に配置され半径方向に対向するように対を成して形成された内側片部と外側片部、並びに、条帯の他方の側縁部の側に配置された中央片部とを有し、
内側片部と外側片部と中央片部とはホース軸方向に沿って延在すると共に、内側片部と外側片部の間の空間に中央片部の一部が配置されるように、条帯の両側縁部が嵌合して管壁が構成されており、
条帯の内側片部が中央片部から分岐する第１分岐位置と、条帯の外側片部が中央片部から分岐する第２分岐位置とは、管軸方向において互いに異なる位置とされており、
合成樹脂製可撓管の管壁の伸長状態において、管軸方向のいずれの位置においても、内側片部と外側片部と中央片部のうち少なくとも２つが、管の半径方向に重なり合うようにされた合成樹脂製可撓管。
【請求項２】
内側片部の末端縁の第１末端位置と、外側片部の末端縁の第２末端位置とが、互いに異なる位置とされ、
さらに、管軸方向において第１分岐位置と第２分岐位置が並ぶ向きと同じ向きに、第１末端位置と第２末端位置が並ぶようにされた請求項１に記載の合成樹脂製可撓管。
【請求項３】
合成樹脂製可撓管の管壁の最縮小状態において、外側片部が中央片部から分岐する部分と外側片部の末端縁とが互いに接するようにされた請求項２に記載の合成樹脂製可撓管。
【請求項４】
内側片部と外側片部の少なくとも一方と、中央片部とには、条帯側縁部の嵌合が解除されるのを阻止する係止部が対をなすように設けられて、合成樹脂製可撓管の管壁の最大伸長状態を規定する請求項２または請求項３に記載の合成樹脂製可撓管。
【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明は、合成樹脂製の条帯により管壁を構成した合成樹脂製可撓管であって、条帯は螺旋状に捲回された状態で、互いに隣接する条帯の側縁部が嵌合しており、条帯は、条帯の一方の側縁部の側に配置され半径方向に対向するように対を成して形成された内側片部と外側片部、並びに、条帯の他方の側縁部の側に配置された中央片部とを有し、内側片部と外側片部と中央片部とはホース軸方向に沿って延在すると共に、内側片部と外側片部の間の空間に中央片部の一部が配置されるように、条帯の両側縁部が嵌合して管壁が構成されており、条帯の内側片部が中央片部から分岐する第１分岐位置と、条帯の外側片部が中央片部から分岐する第２分岐位置とは、管軸方向において互いに異なる位置とされており、合成樹脂製可撓管の管壁の伸長状態において、管軸方向のいずれの位置においても、内側片部と外側片部と中央片部のうち少なくとも２つが、管の半径方向に重なり合うようにされた合成樹脂製可撓管である（第１発明）。